

【4】沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(1) 沖縄本島住民の離島に対する意識調査

実施概要

■ 調査内容	本島住民の離島に対する意識調査																												
■ 調査方法	Web調査																												
■ 調査対象	<p>1. 県内本島在住でWeb調査会社に登録している20才以上の男女 2. 1,126件（男性562／女性564）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>61</td> <td>149</td> <td>122</td> <td>167</td> <td>63</td> <td>562</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>177</td> <td>159</td> <td>119</td> <td>89</td> <td>20</td> <td>564</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>238</td> <td>308</td> <td>241</td> <td>256</td> <td>83</td> <td>1,126</td> </tr> </tbody> </table>		20代	30代	40代	50代	60代	合計	男性	61	149	122	167	63	562	女性	177	159	119	89	20	564	合計	238	308	241	256	83	1,126
	20代	30代	40代	50代	60代	合計																							
男性	61	149	122	167	63	562																							
女性	177	159	119	89	20	564																							
合計	238	308	241	256	83	1,126																							
■ 調査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 離島へのイメージ 2. 離島認知レベル 3. 離島訪問経験 4. 離島訪問目的（訪問経験者ベース） 5. 離島訪問意向 6. 離島訪問したくない理由（非意向者ベース） 7. 行ってみたい離島（3カ所） 8. 訪問したい離島を選んだ理由、何をしたいか 9. モニターツアーの参加可否 10. 離島交流ツアー意向 11. 旅行頻度 12. 沖縄の離島への訪問頻度 13. 離島交流ツアー意向理由 14. A・Bプラン金額 P S M分析 15. 参加したいツアー理由 16. 離島振興についてのご意見、ご感想 																												
■ 調査期間	2015年11月26日(木) ～ 11月30日(月)																												
■ 集計方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単純集計 (2) クロス集計（性別、年代別） 																												

【4】沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(1) 沖縄本島住民の離島に対する意識調査

総括

■ 離島についてのイメージ

本島住民の離島のイメージとして、「海がきれい」「豊かな自然が残っている」といった自然に関するものが高かった。行ったことがある、行ってみたい離島については、どちらにも「宮古島」と「石垣島」が上位に入っており、行ったことのある離島は、観光旅行が主に占めている。また、離島を訪問したい理由としては「のんびりできそう」、「マリンレジャーをしたい」という意見が多かった。

一方、訪問したくない離島の理由の多くが、「この島についてよく知らない」という意見が多く、まずは本島住民に知ってもらうことが重要である。

■ 交流モニターツアーについて

モニターツアーの参加可否については「参加したい（28.2%）」「やや参加したい（23.4%）」で合わせて51%が参加意向を示した。

離島交流ツアーの上位プログラムおよび、下位プログラムは以下となった。

【上位】

- 1位 グルメ（食べ歩き） 77.3%
- 2位 歴史、史跡訪問、散策 71.9%
- 3位 地域でのまち歩き 67.8%

【下位】

- 1位 増農（サトウキビなど） 42.8%
- 2位 漁業体験 36.3%
- 3位 祭りや行事へ運営側（スタッフ）として参加 35.9%

モニターツアーの意向理由で「参加したい」と選択した方の多くは、なかなか行くきっかけがなく、ぜひ体験で行ってみたいという意見が多かった。

モニターツアーの料金については、船を利用した場合は16,210円、航空機利用の場合は21,338円が最適価格と分析できた。

■ モニターツアー参加者ポテンシャル

本島内人口を約129万人として

$$1,290,000 \times 28.2\% \text{（モニター参加意向者）} = 363,780 \text{人}$$
$$\text{（※成人以上の場合）} \quad 986,000 \times 28.2\% = 278,052 \text{人}$$

が本事業の最大参加希望者数と推計する。

【4】沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

実施概要

■ 調査内容	離島交流の対象となりうる団体へヒアリング等で意向を確認。本事業の需要度を探る。
■ 調査方法	ヒアリング調査
■ 調査対象	<p>1. 18市町村対象離島の受入可能性ヒアリング調査 ※対象離島とは、伊平屋村・伊是名村・伊江村・本部町水納島・うるま市津堅島・南城市久高島・渡嘉敷村・座間味村・粟国村・渡名喜村・久米島町・南大東村・北大東村・宮古島市・多良間村・石垣市・竹富町・与那国町の18市町村。</p> <p>2. 対象団体への離島派遣意向ヒアリング調査（10団体） 企業5、大学2、旅行会社1、スポーツ団体1、日本ボーイスカウト沖縄県連盟1</p>
■ 調査項目	<p>○18市町村対象離島へのヒアリング項目</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 過去に交流団体受入の実績があるか ② 今後、交流団体の誘致受入の意向はあるか ③ ボランティアツーリズムというコンセプトに賛同する団体誘致の可能性はあるか ④ 受入についての課題とメリットはなにか <p>○団体ヒアリング項目</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対象離島への訪問宿泊経験、過去実績 ② 離島交流を実施するにあたってのクリアすべき課題 ③ 離島訪問意向、条件 ④ ボランティアツーリズム事業についての評価
■ 調査期間	2016年1月21日 ～ 3月9日

【4】沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(2) 沖縄本島所在の団体への意向調査

総括

■まとめ

離島では交流団体の誘致受入について、大半が前向きな意見であったが、中には、島の宿泊施設や交通機関のキャパが少なく、団体の受入体制が整っていない問題なども挙げられている。

一方、団体の離島訪問意向としては、全団体が前向きな姿勢であった。

団体では、研修や福利厚生、ビジネス、ゼミでの課題、研究活動、地元の人との交流などで、離島を活用することに、興味があり、県の支援事業の元、参加したいという意見であった。

ただし、受入側の離島としては、団体を受け入れる際のメリットよりも、受入体制など課題が多く挙げられていた。

団体側でも同様に、離島を活用する際のクリアすべき課題として受入体制などが挙げられ、概ね一致している。

団体では、ボランティアに積極的な意見が多くあがっている為、離島が抱えている課題を団体のボランティアなどをうまく活用し、連携することで、早期解決に繋がることも期待される。

今回の事業を通しての離島訪問意向が強く出ており、受入側の課題が解決することで、更なる離島交流の発展に繋がるものと結果から推測される。

■離島への団体訪問について

各離島ごとでの団体受入実績は、16市町村中、6市町村と37.5%が団体の受け入れ実績があった。一方、団体の過去の離島訪問宿泊経験がある団体は、10団体中、8団体で80%という結果となった。

■ボランティアツーリズム事業について

離島および、団体ともどちらも前向きな声が多かった。ただし、受入側の小規模離島などは、受入体制の問題が挙げられた。

【4】沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(3) 沖縄本島住民のツアープログラムに関する評価調査

実施概要

■ 調査内容	本年度の調査事業で設定した、各離島のツアープログラムに対する受容性を確認する。但し、ツアープログラムは島毎に多数策定しているため、全てについて調査を行うことは困難であるため、ツアープログラムを5つ程度に類型化し調査を行うこととする。
■ 調査方法	インターネット調査
■ 調査対象	沖縄本島在住者（回収目標 1,500件） ※ 18のモニターツアープログラム案について参加意向を確認するために、6プログラムずつ3つに分けて調査を実施する。 ※500件×3調査（それぞれ6プログラム）=1,500件
■ 調査項目	①対象離島への訪問経験 ②離島訪問意向 ③離島ツアープログラムへ参加意向 ④③の回答の理由（参加したい理由、したくない理由⇒改善点） ⑤旅行についての情報源（広報施策への展開を目的に） ⑥その他
■ 調査期間	2016年3月18日 ～ 3月21日
■ 集計方法	(1) 単純集計 (2) クロス集計（性別、年代、離島訪問経験の有無）

【4】沖縄本島住民の離島に対する意向調査

(3) 離島ツアープログラム受容性調査

総括

■ 旅行実態について

本島在住者に対しアンケート調査を実施。離島への訪問頻度は年間1回、2~3年に1回、4~5年に1回程度が多いことがわかった。また顧客ニーズとしては季節は夏、家族旅行が多い。

旅行についての情報源としては「インターネット」が最も多く、約8割の方が選んでいる。旅行の手配方法としても「WEBサイトから」が7割を超え、インターネットで情報収集し、予約も行う様子が伺える。

■ 沖縄離島旅行経験について

これまでに訪問したことのある離島では「石垣島」「伊江島」「宮古島」「渡嘉敷島」「久米島」といった所が多く、今後行きたい離島では、「石垣島」「宮古島」「西表島」「与那国島」といった離島だった。

■ モニターツアープランに対する評価について

離島モニターツアーについて参加意向の調査を18プランで実施した所、全プランで20%~50%の肯定的意見となった。

最も「魅力的だと思う」との回答が多いのは、「海も山も味わうツアー」、次いで「たーんむ収穫 & 島の魅力発見ツアー」、「ノルディックウォーキング島内散策」と続いている。

回答コメントによると否定的な意見としては「離島まで行かなくても出来る」、「フリータイムがほしい」などが挙げられた。

■ まとめ

今回の結果より「滞在期間」、「フリータイムの導入」、「時間割」、「ツアー内容の見直し」など多くの要望、ニーズを更に分析を行った上で、魅力あるツアープログラムへブラッシュアップする必要がある。魅力的な離島交流ツアーを多数つくり、選択肢を多く設けることで、多様な旅行ニーズをとりこみ、本島住人と離島住人との交流促進が図れるものとする。